

愛郷  
無限

土屋館  
どや  
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街  
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035  
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2013年12月06日号 NO.437

写真提供：大崎市

## Subject：特定秘密保護法案

我々の仲間のある若者が自ら死を選択しました。今年に入ってから、地元で頑張っている・将来ある真面目な二人の青年の自死を我々は見送らねばなりません。色々なことを深く深く考えさせられます。これから先のさらに厳しくなる世の中を予見するような衝撃を受け、あまりに辛くて言葉もありません。青春を謳歌しているはずの若者達が自死を選ばねばならない世の中とは、一体どんな世の中なのでしょう。ナーバスで優しくて思いやりのある人間が生きづらい世の中。声大きく、経済的に富むものだけが謳歌できる世の中。簡単に一言や一因では片付けられません。長い時間をかけて複雑に絡まり、変化してきた結果、溜まりに溜まった膿がどんどん噴出している現世なのでしょうか。

**特定秘密保護法案**が国会で可決れて、法律になりそうな勢いです。

日本は昔からスパイ天国で、バカ正直な国だと他国からあざけり笑われ続けてきました。だから国防の、国益のためには絶対に必要なんだとの説明が繰り返されています。生き馬の目を抜き、知謀深淵のごとき国際社会に於いて、国家間の大事・相互関係に関しての秘密が必要であることは理解できます。ところが世界の潮流はどうでしょうか？米国が欧州の主要閣僚の電話を傍受していたことが暴露され、莫大な機密情報がウィキリークスによって白日の下にさらされ世界的な大問題になっています。その結果、米国内では、秘密は少なくして、その代わり権力への監督を強める方向に大きく舵が切られています。その最新の世界情勢を踏まえた法案の内容であるのか？

他国では秘密事項と認定する機関と手法（ガイドライン）、さらに監視する独立した機関が明確になっている事も日本との違いです。さらに一定期間後には一般開示されることが補償されている。日本版は素人が見ても如何様にでも流用できる表現です。私は文筆家でもなければマスコミ人でもないのに、言論の自由を議論する資質と教養を持ち合わせていません。しかし、どうしても不安に思わざるを得ないのは、国防や外交のことよりも、原子力発電のことです。テロ防止という大義の名の下に、原子力発電所に関する（政府や官僚が世間に知られたくない）情報が国民に秘せられる可能性が高くなります。

震災直後のスピーディ（放射能影響予測システム）の事例は皆さん覚えてらっしゃるでしょう。原発事故後の放射能の拡散を予想するシステムの警報や予想値が、一般住民や地方行政には全く知らされることなく、多くの方が避難した先で逆に被曝してしまったことを。今春に我々が開催した【原発避難の実情を知るシンポジウム】で福島県浪江町の原発避難をしている友人達から、マスコミに流れない現地の話を聴くにつけ、現地訪問で現場を見るにつけ、秘密保護法がない現状でも多くの事が開示されていないことを既に知っているのです。これで秘密保護法が運用されたらもっと様々なことが秘され

